

メディアは 全ての人権のため 隠された真実を暴け

連続講座第9回

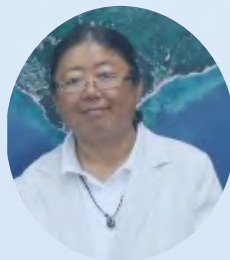
10月25日

14:00~17:00 土

(開場13:30)

ところ

沖縄大学 アネックス
共創館2階



安部真理子氏

(あべ まりこ)

日本自然保護協会主任、リーフチェック日本コーディネーター。海洋環境学の分野で琉球大学にて博士(理学)取得。沖縄・奄美のサンゴ礁保全や沿岸管理に携わる。

浦添西海岸のサンゴ礁の海から見た環境アセスの課題

近年、浦添のサンゴ礁は健全さを取り戻していたが、方法書に記載されている方法では不十分で、この海の豊かさや潜在力を測ることはできない。



砂川かおり氏

沖縄国際大学経済学部地域環境政策学科 准教授
(すながわ かおり)

浦添西海岸における複数の開発をめぐる累積的環境影響評価の必要性等について

那覇港湾施設代替施設建設事業を含む浦添ふ頭地区の複数の開発計画が、那覇港湾計画に位置づけられている浦添ふ頭地区北側の水域「自然的環境を保全する区域」などへ与える累積的環境影響について考えていきます。

桜井国俊氏

沖縄大学名誉教授 日本環境会議顧問
(さくらい くにとし)

軍港としての使用についてアセスを行うべし！

沖縄防衛局のアセスの対象は埋立地の建設にとどまり、軍港として使用することを全く含んでおらず、アセス法が示す環境影響評価の定義に反する。軍港として使用することもアセス対象に含めた改訂方法書を示すべきである。



開催趣旨：

新基地建設による辺野古の海の破壊が沖縄島東海岸で進行するその片方で、西海岸に残された貴重な海である浦添の海に、いま、米軍那覇軍港が移設されようとしている。事業者の沖縄防衛局は、移設の環境影響を評価すべくアセス作業を進め、8月18日にアセス方法書を公開したが、このアセスでは浦添の海は守れない。日本の環境アセスが世界標準から大きく遅れをとっていることを余すところなく示す問題満載のこの方法書を講師とともに読み解いていこう。

浦添西海岸埋め立てが
明らかにする
日本の環境アセス制度の問題

資料代:500円

主催：沖縄・琉球弧の声を届ける会 共催：沖縄大学

共同代表：桜井国俊・与那覇恵子・丹原美穂 連絡先：桑江直哉090-6868-6232

3.環境影響評価の手法

本事業の環境影響評価手続の流れ



オンライン参加の申し込み先

参加申込・ご寄付は
Peatix サイトより



○「沖縄・琉球弧の声を届ける会」ホームページ
<https://ryukyukohp.jimdofree.com/>

※ 後日、「沖縄・琉球弧の声を届ける会」
Youtube チャンネルにアーカイブ配信予定です。

ご寄付・カンパのお願い！

振
込
先

沖縄銀行泡瀬支店 普通 1941039
オキナワリュウキュウコノコエヲトドケルカイ
(沖縄・琉球弧の声を届ける会)

Peatix にて Web からオンラインで寄付も受け付けます
詳しくは以下サイトから
<https://ryukyus.peatix.com/>

ハイブリット配信

会 場 沖縄大学アネックス共創館

申込不要

資料代 500 円

オンライン ZOOM 申込必須

参加費無料

沖縄大学アネックス共創館 アクセス



沖縄大学 那覇市字国場 405

バスをご利用の場合 市内線 那覇バス 6 番

バス停 (沖大アネックス前) 徒歩 1 分 市外線 (那覇バスターミナル乗車)

35 番 40 番 309 番 235 番

<賛同団体>泡瀬干潟を守る連絡会、NPO法人奥間川流域保護基金、沖縄環境ネットワーク、沖縄平和市民連絡会、嘉手納ピースアクション、基地・軍隊を許さない行動する女たちの会、ジュゴン保護キャンペーンセンター、日本ジャーナリスト会議、日本ジャーナリスト会議沖縄、ノーモア沖縄戦命どう宝の会、普天間基地爆音訴訟団、ヘリ基地反対協議会、ミサイル配備から命を守るうるま市民の会、有機フッ素化合物 (PFAS) 汚染から市民の生命を守る連絡会